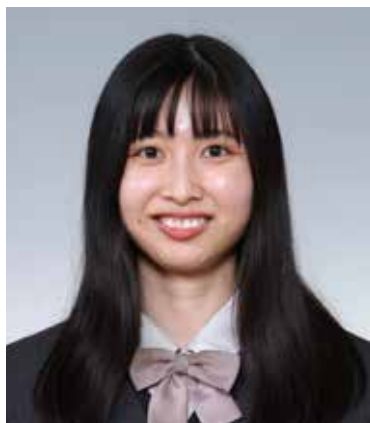


受験体験記

2024



受験を経験して思ったこと

東北大学 工学部

跡部 柚奈
(暁秀中)

最高の春を迎えることができました。

私は、両親や先生方、一緒に高め合った友人たちの支えもあり志望校に合格することができました。ここでは私の経験を話します。

まずは、時間の使い方です。私は高3の春まで部活に入っていたので、その分時間に限りがあり、勉強時間の確保は容易ではありませんでした。しかし時間が限られていたからこそ、時間があるうちに一気に集中したり、休日でも普段通り起床し、朝から勉強を始めたりすることができました。また、生活にメリハリをつけることは大事でした。私は勉強や部活以外にも、友人と遊んだりテレビを見たりと息抜きすることも多かったですが、何をするにも切り替えを意識していました。自分の行動にけじめをつけるとそれぞれにより力を入れることができたと思います。

続いて演習の仕方についてです。問題集は、ほぼほぼ学校から配られたものを使っていました。私は定期テストで高得点を取るために、出来ないところがなくなるまで問題集を何周もしていました。一番時間がかかる数学は、テスト1ヶ月前から1周目を始めないと厳しかったです。VCでも高得点を取るために、例文を記憶しそうになるくらい何周もして、前置詞や派生語など細かいところも自分のものにしました。正直、そのときはクラスメートに勝ちたくて頑張っていました。結果的には受験につながりました。

そして、メンタル面の管理についてです。模試の結果を見て、私はよく一喜一憂しがちでしたが、今振り返ると全く意味のないことだったと思います。模試の出来にかかわらず、本番で実力を発揮できなければ意味がありません。だからこそ大事なのは、冷静になって分析することです。模試を通して自分の弱いところに気づき、早いうちにそれを埋め合わせなければいけません。

また、本番の試験では予想外のことも起こりえます。実際私は、理科の試験中に、開始して数十分で私ができる問題を解ききってしまい、半分以上白紙のまま手が止まってしまいました。過去問題では、制限時間ギリギリまで使わないと解ききれなかったからこそ、余計に焦り、今までに経験したことのないようなパニック状態になってしまいました。それでも私は、次の日の数学の試験まで自分が持っているものをなんとか絞り出し、最終的に合格をもらえました。結局私が言いたいことは、途中で諦めてしまうのはもったいないということです。最後まで来たら、自分に対して「他の受験生よりできないわけがない」という自信を持ちましょう。

最後に、これまで私のサポートをしてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。そしてこれから受験生になる皆さんも、後悔のない受験生活を送ってください。



先生との二人三脚

名古屋大学 理学部

大崎 誠 矢

(暁秀中)

私の受験を一言で言うと、「先生との二人三脚」です。私は、塾に行かなかったので、先生方から、課題をもらったり、添削をしてもらったりと、たくさんお世話になりました。その中で、私が受験を通して学んだことを3つ話します。

1つ目は、共通テストの配点が低い科目の勉強も疎かにしないことです。理系の場合に地理が2次試験に出ないからといって、重要に考えていない人がいるかと思います。しかし、共通テストでの地理の100点は全体から見ると意外と大きいので、朝講習だけでも参加してください。最初の頃は結果に反映されないかもしれませんが、だんだんと地理の点数が上がっていきます。共通テストで安定して高得点が取れる教科が多ければ多いほど、2次試験の自信にも繋がっていきます。

2つ目は、共通テスト後の個別対策講習に参加することです。大変でも努力して取り組むことにより、不安をなくせたので、参加して良かったと思いました。講習では、先生が客観的に自分の弱点を教えてくれたり、どのように解けばより高い点数が取れるのかというアドバイスをもらえたりします。そうやって、講習をやっていくうちに苦手だった教科が得意になり、自信へと変わっていくこともあるので、2次試験に必要なならば、どの教科もためらわずに講習を受けてみるべきです。講習によっては、志望大学よりもレベルの高い問題をやるので意味がないかと思うかもしれませんが、講習をやっていくうちに自信が持て、本番では最後まで解けたり、以前解いた問題に似た問題が出て解きやすかったりするのです。受験が終わった後にはやって良かったと思えます。

3つ目は、どんなに不安でも自信を持つことです。やってきたことを信じ自信を持って受験に臨んでください。失敗したらどうしようとは思わずに、絶対に受かると思ってください。受験で不安を感じたら、一人で抱えずに、先生や友達家族に話して下さい。勉強しても伸びないと感じることもあるかもしれませんが、諦めないでください。いつか伸びていると実感する時があると思います。寝る間も惜しんで勉強したいかもしれませんが、休息や睡眠をとることは重要です。志望大学だけ受けるのではなく滑り止めの大学もしっかり受けて下さい。合格を1つでももらおうと、心に余裕と自信ができて、志望大学の試験に前向きに取り組めると思います。時期的に花粉症や感染症で体調が悪くなることも不安の一つになるので、マスクの着用や適度な睡眠を心がけて下さい。

最後になりますが、受験でお世話になった先生方、クラスメイト、そして両親には感謝しきれません。この学校は受験に詳しい先生が多いので、どんどん頼ってください。皆さんも、感謝を忘れずに、受験に向かって全力で頑張ってください。



あきらめたらそこで 試合終了ですよ・・・？

鹿児島大学 歯学部

若菜 晴
(暁秀中)

私の受験に関わった全ての方々、本当にありがとうございました。感謝してもしきれない程です。恩返しと言うと大袈裟ですが6年間で国家試験に合格し、歯科医師になり社会貢献出来るよう、これからも頑張ります。

私は①部活の両立、②大学入学共通テスト以降を記します。

1つ目は、私はバスケット部の部長として、3年生のインターハイまで部活動を続けました。部活動継続を悩むのは誰しもあり、私も悩みました。しかし、部活の苦しい練習や負けた悔しさ、勝利の喜びを経験した事で達成感が生まれ、それが受験期を乗り越える自信に変わりました。同級生や後輩の絆は、勉強で辛い時の心の支えになります。両立は本当に大変ですが、ぜひ最後まで全力で部活を頑張ってください。

2つ目は、少し細かく、一般受験の人は、①「共テ後の自由登校も毎日学校へ行く」です。私は先生も認める、一番登校した生徒です。1限～7限迄と土曜日もです。登校は日々の勉強リズムが崩れず、質問にも直ぐに行けるし、沢山の先生が、私と廊下ですれ違う度に応援の言葉を掛けて下さり、力になりました。個別授業時は友達にも会え、一緒に勉強する事でモチベーションが保てます。この時期の友達の存在は本当に大きいものです。一人では到底この時期を乗り越えられません。学校で勉強する事にはとても意味があると思います。

次に、②「出願校分析を徹底的にやること」です。共テが不本意に終了した私の場合は、歯科医師になる夢が捨てきれず、歯学部を調べに調べました。最近では試験パターンも、国立では複雑な所もあり、要項を徹底的に再度見直し出願校を絞りました。絞った数校の現在の自分の立ち位置を調べ(データネットの度数分布や、過去比較3年分、赤本で3年分の合格最低点を今の自分の点数に換算)、そして2次試験問題が自分に合っているかを、まずは過去問3年分を解き、合格点に到達可能かを見極めました。それを三者面談迄に行い、その後は、過去問15年分を2周、出題傾向の把握や記述の添削を先生に毎日お願いし、過去問と出題分析を完璧にしました。最後に③「面接の準備は入念に」です。医療系・推薦受験の人は早めの準備をお勧めします。学校で何度も練習は勿論、私は地域で活躍している歯科医の先生方や職員の方々に直接話を伺いました。現場の生の声を伺う事で、将来の自分を想像したり、最新の歯科医療を知る事ができ、想定質問や2次面接作文で大変参考になりました。おかげで本番の面接は、多少の緊張があったものの自信を持って挑めました。

受験期は本当に辛いと思います。判定が悪かったり、思うように勉強が進まなかったり、周りは推薦や私立大学で決まって、前期試験終了後は更に登校者は減り、中期・後期に備えて勉強を続けるのは気持ち的にとっても辛いです。泣き出した事もあるでしょう。ですが、「諦めたらそこで試合終了ですよ・・・？」、絶対に諦めない事を誓って、自分を信じて勉強を続けて下さい。

夢は必ず叶います。暁秀の後輩の皆さん、応援しています。



最後まで諦めない

浜松医科大学 医学部

横山 すばる
(暁秀中)

私は、受験勉強の中で一番大切なのは、最後まで諦めないことだと思います。

私が受験勉強で一番頑張ったと思うのが大学入学共通テスト対策です。夏休みには、全教科5回分の過去問題演習を、直前期には、平均して10回分くらいの予想問題を解きました。それにも関わらず、本番では、数IAと、予想していなかった生物で点を落としてしまいました。数IAは、試験終了後、やらかしたなという感覚がありましたが、すぐに次の数IIBに切り替えられたのが良かったのかなと思っています。生物は、手応えよりもかなり点数が低かったです。生物は共テで最後に受けた科目だったので、集中力が切れていたのかもしれませんが。少しのミスで大きく点を落とすことがあるので見直しをしっかりと欲しています。

私は、学校推薦型選抜で既に出願済みでしたが、共テ後に、学科試験、面接、小論文を課すものでした。私は、共テで思うように得点できなかったのも、推薦入試での合格は厳しいのではないかと悩みました。しかし、先生方に、まだ十分戦えると励ましていただいて、学科試験の勉強はもちろん、面接や小論文までしっかりと対策していただきました。勉強の計画もみっちり立てていたのですが、学科試験の2週間ほど前になってコロナにかかりました。2日くらい発熱で勉強できず、計画が狂いましたし、何より、他の受験生に対して遅れをとっているという精神的な負担がすごく大きかったです。受験の時期はインフルエンザやコロナが流行るので、体調管理には十分気をつけてください。

受験本番は、やはり緊張して、受験番号を書く箇所を空欄のままにできてしまいました。試験終了後、訂正の時間があり何とかできましたが、受験資格自体がなくなる可能性があると考えてとても怖いので、試験官の話はきちんと聞くようにしてください。

試験後の手応えは、学科試験は、履修していない物理が数問しか解けず、他の受験生よりは出来ていないだろうなと思いました。ただ、2日目の面接と小論文の試験は上手くできた気がしました。学校で対策していただいたおかげか、面接では止まらず話すことができ、小論文も自信をもって書ききることができました。

また、受験勉強以外で頑張っていたのが、ボランティア活動と定期テストです。ボランティア活動は、障害児支援ボランティアに参加しました。実際の面接でもこの活動について話す場面があって、経験しておいて良かったと思いました。そして、私は早い段階から推薦入試での受験を考えていたので、日々の授業や定期テスト対策を頑張っていました。

共通テストで思うように得点できなかったり、コロナにかかって計画通りに進まなかったりしましたが、先生方や家族の力を借りて何とか合格できました。

最後まで諦めなければ、きっと良い結果で終われると思うので、頑張ってください。



探求心

東京工業大学 環境・社会理工学院

大川 桔平

(暁秀中)

私は、高校時代に取り組んだ中から3つのことを書かせていただきます。

1つ目は、暁秀祭についてです。私は、文化祭では吹奏楽部の部長、体育祭では東軍の応援団長を務め、この時期に学校の授業以外で勉強時間を確保することが非常に困難でした。そのため、授業中にすべてを理解するつもりで取り組みました。実際は先取りをして自分の学習を進めたかったのですが、現実にはそう甘くなく、目の前のすべきことをやるのがやっとでした。暁秀祭を思い切りやり遂げたこともあり、その後の受験勉強も遅れを取り戻そうという気持ちで集中することができたと思います。皆さんも焦らず、今すべきことを全力で楽しんでもらいたいです。

2つ目は、演習問題を解くときについてです。ここでは物理を例に挙げると、問題文から使う式などを考え立式や計算をした結果、答えが違うことが多々あると思います。その時、私はただ答えを写すのではなく、なぜ間違えたのか、計算ミスなのか、どういう条件下ではこの式を使ってはいけないのか、などを考えることを心掛けました。私は解説を持ち歩かずに、答えが違ったときに自分で再度考え、数値が合うまで何度もやり直していました。最終的にどうしてもわからなかったら先生や友達に聞いたり、友達の解説を見せてもらったりして理解していました。この方法は正直効率が悪いときの方が多くありますが、自分で解こうとすることで、様々な条件について考え、より深い理解を得ることができると思います。

3つ目は、私が最も印象に残っていることで、それは得意教科への取り組み方についてです。私は高校2年生の秋に、渡邊毅先生から『大学への数学』シリーズの『解法の探求・微積分』という本を薦められ、その後の半年間は、テスト期間以外は勉強時間の大半をその参考書を解くために使いました。高校3年生になり、さらに難しい問題にも挑戦しようと思った私は、月刊の『大学への数学』のコーナーである『学力コンテスト』に応募するようになりました。この方法は皆さんに薦めるものではなく、他の苦手教科を勉強した方が合格に近づくかもしれません。しかし、ここで超得意科目を作ることができたことで、受験当日も自信を持って臨むことができたと思います。

受験勉強をする中で、孤独な場面がどうしても出てきて、先生たちが受験は団体戦というのに疑問を持つ人がいると思います。受験が団体戦か個人戦か、考え方は人それぞれだと思いますが、周りの方々によるサポートのおかげで受験に集中できているということを忘れずに、これからの受験を勝ち残ってもらいたいです。

最後に、共に励まし合いながら勉強してくれた友人、担当していただいた先生方、送迎やお弁当の用意などをすべてしてくれた両親に心から感謝を申し上げ、体験記を締めさせていただきます。



自分なりの努力

九州大学 工学部

井手 伶
(暁秀中)

受験において私が特に重要だと感じたことを3つ紹介したいと思います。

1つ目は、授業を大切にすることです。私は3年生の春までサッカー部に所属していたので、他の人と比べて、時間があまりありませんでした。実際に部活をやっていたときは、学校以外の時間に自分で勉強する時間は少なかったのですが、そんな中で自分は、学校の授業を大切にすることを意識していました。例えば、自分の中では物理が得意な教科だったのですが、受験に向けての物理の勉強は、学校の授業と、先生に講習をお願いして、その講習とそこで解くプリントの予習、復習のみでした。もちろんもっと演習量を増やすのに越したことはありませんが、それだけ授業というのは自学に比べ質が高いので大切にすべきです。

2つ目は、メンタルコントロールです。誘惑を断ち切るという話がよくありますが、ずっと勉強だけしてできる人なんていません。私は、受験期でもゲームもしたし、漫画も読んだし、友達とも遊んでいました。受験で東京に行った際には、前日に神保町でお笑いを見ました。また物理、化学への理解が少し深まるかもなんて思いながら科学館に行ったのですが、恐竜がかっこよくて見入ってしまいました。これは少し遊び過ぎかもしれないけど、自分はそれだけ息抜きを大事にしていたから、強いストレスを感じることはありませんでした。少し先に小さな楽しみを作るとすれば、目の前のしんどいことも頑張ることができます。また、一人でずっと勉強するのはよくないです。講習の日や共通テスト後などは、学校に行かずに勉強するという人も多いですが、私は極力学校に行くようにしていました。朝憂鬱でも、学校に行き友達と過ごすうちに気分が前向きになって、モチベーションを高く保つことができました。学校に行かないにしても、塾や自習室などで友達といつも通りに話す時間は作るべきです。

3つ目は、睡眠をしっかりととることです。時間がない中で能率を上げるためには集中力を高く保つ必要があり、そのためには十分な睡眠が必要です。私は毎日10時ぐらいに床に就き、8時間から8時間半ほど寝るといって、さながら小学生のような生活を送っていました。さすがに寝過ぎかもしれませんが、それだけ睡眠を意識したことで、私は昼に眠くなることは少なく、授業や自学の際の集中力も高く保つことができました。

以上、3つのポイントを紹介しましたが、他人のやり方を真似するのではなく、良い点を吸収しながら、自分に合った、自分ができる方法を確立することが最も大切だと思います。体と心が壊れないように、自分なりに頑張ってみてください。



『 志 』

新潟大学 工学部

加藤 晃 得

(熱海市立泉中)

高校1年生の僕にとって「受験」は、高3ならだいたいの人が受ける人生をかけた試練、そんな漠然としたものでした。当たり前です。それまで一度も経験したことがないことだったからです。高校受験は経験していましたが、大学受験とのギャップは理解していたつもりです。そういった漠然とした焦燥感からか、高1の頃から授業をよく聞くことと、英単語の暗記はコツコツやっていました。今振り返ると、そういった小さな積み重ねが、高3の受験勉強の助けになったと思います。

それではまず、僕の勉強法について紹介します。僕は数学、理科、英文法に関しては授業と課題、テスト勉強を通して基礎を固めました。そういった内容理解と暗記を丁寧にやることで、学びを楽しみながら勉強に取り組みました。自学習では主に、ターゲットの暗記や青チャートを何回も繰り返し取り組みました。特に数学に関しては、解法を暗記する段階と、何度も演習して計算力をつける段階を意識して取り組みました。古典は、さくさくや学習系YouTubeの動画を活用して、単語と文法の暗記をしました。

次に、勉強に対する心構えやモチベーションの保ち方について紹介します。受験生の一番の悩みはここではないでしょうか。僕自身、ものすごく悩みました。勉強しなきゃいけないとわかっているのに行動に移せなかったり、三日坊主になったりして、そんな自分にまた落ち込んでしまうことも。そういう時こそ原点に立ち返って、自分がなぜ大学に、もっと言えば、その志望校に行きたいのか、やりたいことは何なのかといった目的を明確にしながら、どうすれば合格できるのか、具体的に計画を立てました。また、どうしても身が入らないときは気晴らしに音楽を聴いたり、ランニングをしたりしてから再開して、気持ちの切り替えをしました。また、共通テスト本番は、あまり気負わず自分を支えてくれた、家族や先生方、友達に、恩返しする思いで受けました。

もし、これから大学受験をしたいと思っている人や、受験勉強で悩んでいる人がいるなら聞いてください。結局、入試の可否は、自分の志次第です。今の自分のレベルや周りのレベルで決まらないし、特別な勉強法も塾も正直必要ないです。ただどうしても受かりたいのなら、決意したなら、「ひたすら勉強する」という王道を走るしかないです。これ以上、悩んでも何も始まらないし苦しいだけです。もういいから行動しちゃってください。無鉄砲で大丈夫です。あとで自分で気づいて方向を調整すればいいです。疑うならやってみてください。勉強法を調べる前に、まず自分で勉強して自分なりの勉強法を編み出していった方が、はるかに楽し、正確だし、面白いと思います。だから僕が先ほどいった勉強法は忘れていいです。参考にしないでください。自分の勉強に責任をもってくださいね。



受験を終えて

お茶の水女子大学 文教育学部

清水 和夏子
(暁秀中)

私は学校推薦型選抜を利用して、合格をいただきました。高1の時から思い続けていた志望校だったので、とても嬉しい気持ちでいっぱいです。受験を終えて私が重要だと感じたことを皆さんにお伝えします。

1つ目は、準備を早めに行うことです。私は高2の時に聞いた受験体験談で、学校推薦型選抜を知りました。しかし、出願を決めて志望理由書の作成に取り掛かったのは、高3の9月頃でした。この時期は一般入試の対策と並行していかなければならないので、全く余裕がありませんでした。また、自分の満足のいくものを作るためには時間がかかります。高3の春頃から取り組むべきだったと後悔しています。

2つ目は、募集要項をよく読むことです。私はよく読まなかったので、英検のスコアの期限に気が付かず、提出することができませんでした。募集要項には利用できる資格とその期限が書いてあるはずですが、募集要項がまだアップロードされていない場合でも、前年度のものともあまり変わらないと思うので、確認してみるのをおすすめです。そして、取得できるうちにできるだけ高い級やスコアを目指すの良いと思います。

3つ目は、学校の先生を頼るということです。私は、併願校や受験方式の相談を何度もしたり、過去問題の解説をお願いしたりしていました。先生と話していくうちに、私は自分の学びたい分野を見つけることができました。受験生を何度も受け持っている先生方が多いので、経験が豊富で受験に詳しいです。不安なことがあれば先生方にすぐに相談するのが良いと思います。また、面接は本番の1か月前からほぼ毎日練習してもらいました。毎回同じ質問をしてもらうのではなく、時々変化球な質問を出してもらいました。そのおかげで、本番で予想外の質問をされた時も、焦らずに自分の考えを言うことができました。志望理由書や小論文は、自分では気づけない表現のミスや改善点が見つかるので、必ず添削してもらってください。

4つ目は、実際に大学に行ってみるということです。オープンキャンパスや学園祭などでは、受験生のためのイベントが開かれているはずです。私は、体験授業を受けたり、教授の先生方や学生の方に直接質問ができる相談会に行ったりしました。特に、学生の方に直接質問できたことは、私の受験にプラスになりました。私と全く同じの志望学部・学科・コースで、しかも学校推薦型選抜で受かった先輩だったので、聞かれた内容やその対策、面接官の特徴など様々なアドバイスを頂きました。学園祭は推薦入試のちょうど2週間前にあり、行くのを躊躇していましたが、行ってよかったと今でも思っています。

最後に、これから受験を迎える皆さんが、悔いのない結果を得られることを心から願っております。



受験を振り返って

埼玉大学 教育学部

太田 瑠音
(御殿場市立高根中)

まず始めに、この3年間私を支えてくださった暁秀の先生方に、この場を借りて感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

ここからは、受験期を通して感じたことや大切だと思ったことを綴っていこうと思います。少しでも参考になれば幸いです。

まず一番大切だと思ったことは、自分を見つめ直すことです。自分が将来何になりたいかや、何をしたいかを考えてみると良いと思います。きっと明確な目標がないという方も多いと思います。そんな人は自分に向けていそうな職業などを簡単で良いので調べたり、自分の好みや得意不得意な教科を理解しておきましょう。これが受験期できっと自分の武器になります。また、志望校が決まりやすくなります。

次に、大切だと感じたことは、自分に必要なことだけを勉強することです。生きていく中では多種多様な学問に触れていくことで、多くの知見を得ることが出来ます。これも確かに大切ですが、受験は自分が必要なものだけを極めることが大切だと私は考えます。私の志望校は、共通テストと2次試験の点数比率が、共通テストの方がかなり高かったので、共通テスト対策に重点を置いてきました。また、国公立大学の2次試験は、試験科目が少ない大学もあります。だから、志望校が決まっている方は、その大学についてしっかりと調べ、無駄の無い勉強をしていきましょう。また、先も綴った通り、得意不得意な教科を自分で理解しておくことで、勉強の優先順位が自然と見えてくると思います。私は社会と英語が苦手だったため、毎日必ず触れることを決めていました。そのため最終的には、苦手意識と不安はほとんど払拭され、毎日の積み重ねが自信へと変わっていきました。とにかく受験は、分析と戦略が命です。

そして3つ目に大切なことは、無理をしないということです。生活リズムを崩してまで勉強することは、逆効果です。眠い時は仮眠を取ったり、軽い運動をすることをお勧めします。気持ちが沈みそうな時は、自分の好きなことをしてください。(没頭し過ぎには要注意)受験期だからといって、常に勉強だけをすればいい訳ではありません。一生懸命と無鉄砲は別物です。

最後に、受験は1人では戦えないということを忘れないでください。保護者の方や先生方が常にそばで支え続けてくれています。切磋琢磨し、互いに高め合える友がいます。これは当たり前のことではありません。絶対に感謝の気持ちを忘れないでください。毎日毎日受験のことだけを考え、悩み、勉強に専念することが出来るのは本当に幸せな事だと、この受験期を通して私は感じました。両親と先生方、友達には感謝の気持ちでいっぱいです。

皆さんの今後の発展を祈っています。頑張ってください！



山梨大学 工学部

市川 暖 朗

(熱海市立泉中)

山梨大学工学部工学科土木環境工学コースに合格した市川暖朗です。

今回は、自分の1年間の受験生活を4つに分けて紹介していきたいと思います。

1 春～夏休みまで

この時期にやるべきことは、1年間のざっくりとした計画を立てることと、大学について調べることです。何月までにどの参考書を終わらせ、何月から共通テスト対策をするか、大まかに1年間のスケジュールを立てておくことが大切です。また、大学について調べる際は、学部学科、入試方式、必要な教科数、倍率、募集人数、合格最低点、キャンパスの位置などを調べておくといよいと思います。また、受験勉強において基礎が最も大切だということは、もはや言うまでもありません。この時期から、習慣的に英単語や青チャートなどの長期的な参考書・問題集を進めておくこと後悔が少ないと思います。それに加えて、勉強面ではスマホとの付き合い方が重要です。今は勉強時間を記録でき、友達と学習時間を競うことができるアプリや、英単語・古文単語が覚えやすいアプリなどがあります。もちろんスマホの使い過ぎは厳禁ですが、正しい付き合い方をすることで、勉強をより効率化することができます。

2 夏休み

自分は塾に行っておらず、あまり外に出るのが好きではなかったため、勉強時間のほとんどは自宅で過ごしました。自宅で学習するメリットは、起きてからすぐに勉強できることや、着替え・移動の時間を省いて勉強時間を確保できることなどがあげられます。夏休みで気を付けるべきポイントは、まず何と言っても生活習慣です。自分は0時就寝、6時起床を徹底していました。他にも、ご飯を食べる時間や風呂に入る時間などを固定化し、規則正しい生活習慣を送ることで、勉強に集中することができました。また、夏休みの間には、ほとんどの大学でオープンキャンパスが実施されているので、学業の支障にならない程度に、色々な大学を見学しておくことをお勧めします。

3 秋～共通テスト

夏休みが終わると、夏中に実施した模試の結果が多く返ってくると思います。もちろん判定も大事ですが、時間がかかってもいいので、それらの直しに心血を注ぐことが大切です。それが終わったら、早めに共通テストの過去問題を解いておき、出題形式や難易度などに慣れておく必要があります。共通テストで高い得点を取っておくと、共通テスト利用という制度を使って、無試験で私立大学に合格することができたり、2次試験で必要な点数が低くなったりします。

4 共通テスト～2次試験

共通テストが終わると、自分を含め、多くの受験生が勉強のモチベーションが低下してしまいます。自分は勉強のモチベを保つために、学校の個別講習へ行き、先生と進路の相談をしたり、2次試験の対策を行いました。一緒に来ている友達と話すことで、気分のリフレッシュにもなりました。多くの人は2次試験で必要科目数が減るので、最後まで諦めずに頑張ってください。



時間不足の受験生へ

早稲田大学 商学部

新 谷 世 菜

(伊東市立北中)

私は、高2の冬から早稲田大学の商学部に行きたいと考えていました。主に推薦の為の準備をしていたこともあって、本格的に一般受験の対策を始めたのは高3の9月でした。もちろん赤本を解いたこともありませんし、早稲田大学対策をするのには、圧倒的に時間が足りなかったです。それでも第1志望校に合格出来たのは高1の頃から定期テストに向けて地道に勉強してきた為に、基礎力がついていただけたと思います。このような失態を犯さない為にも、推薦を狙っている方は「一般受験でも合格出来るぐらいの学力をつける」つもりで日頃から勉強をして欲しいです。そうだとすると、万が一皆さんが同じ状況に陥った時の為に、私が重要だと感じる2つのことをお伝えします。

1つ目は、「勉強は量より質」ということです。よく聞くこの言葉を具体的には分かっていない方がいるかと思います。「量」は解いたページ数など単純な勉強量のことで、「質」はそれらへの取り組み方だと私は考えています。例えば、1日のうちに英語の過去問題を、答え合わせをしないで5年分解いた人より、受験科目全て、つまり1年分を解いた上で、答え合わせまでした人の方が、有意義な学習ができています。1日の勉強の質は、解く問題の扱い方と教科のバランスで決まります。苦手な1教科だけではなく、得意な教科も含め、満遍なくやっておくことが受験直前期には特にオススメです。更に、ここで例を挙げた過去問の扱いは、大学受験の勝敗を分けます。腕試しとして使うだけでなく、分からなかった問題が何故分からなかったのか理解することや、その大学の出題傾向を分析することに使ってください。

2つ目は、「夜はしっかり寝ること」です。脳は、寝ている間に得た情報を整理して記憶します。私は毎日22時には寝て、その日覚えたことを脳に定着させることを心掛けていました。気持ちが焦ってしまって、寝るくらいなら勉強したいと感じる方が多いと思いますが、あなたが寝ている間も頑張ってくれる脳を信じて寝てあげてください。それでも心配な人は、朝早く起きて勉強するのがオススメです。試験当日は朝早くから準備しなければならないこともあるので、今から身体を朝型に切り替えた方がお得です。

急いで詰め込んだ人も、コツコツやってきた人も、本番まで努力した受験生全員に大事なことは、「会場では適度に諦めること」です。1教科目の出来に自信がなくて絶望したときは、その教科は無かったこととして次の教科に備えて勉強してください。私は、早稲田大学商学部の1教科目である英語の試験の後に、帰りたいと思うほど辛く感じていましたが、それでも合格だけは諦めませんでした。どんな状況でも合格することだけを諦めずに勉強した人が最後に成功します。



高校の頑張り

北里大学 理学部

前 田 眞一郎

(裾野市立富岡中)

高校生活はとても充実した生活を送ることが出来ました。1・2年生の頃には特に部活動に、3年生になってからは本格的に受験勉強を頑張ってきました。

1年生の時には、全く知らない人たちと良い関わりが持てるか心配していました。勉強に関しても、中学からあまり頑張っていなかった自分にとって、とても心配なことでした。そんな中でも、いろいろな行事や部活動を通して関係がよくなり、勉強に関してもだんだん高校のペースに合わせるながら進めることができ、成績も入学した時と比べてよい結果を修めることが出来ました。

2年生になって、毎年何回も行われた模試や学校のテストに関して、特に意識を持つようになりました。自分の夢に対して、どの大学だったらどのようなことを支援してくれるのかを、本格的に考えるような年になりました。そのため、勉強方法や苦手教科の改善を特に頑張ってきたと思います。周りの友達とも模試の結果などで比べてみたり、苦手教科に対しては、得意な友達に相談してみたりしました。自分が行きたいような大学に関しては、E判定がほとんどでしたが、最終的にはE判定よりもよくなり、自分の成長を実感できるような1年を過ごすことが出来ました。

3年生になり、部活を引退した後、本格的にどのような点数で大学受験を乗り越えていくかを決めていく時期になりました。自分は得意教科も不得意教科もあまりなかったので、まずは得意な教科の一つ作ることを目標に頑張っていました。休みの日はほとんど、友達と一緒に自習室や図書館に朝から行き、夜に帰るような日々を送っていました。体調を崩す日もあり、コロナウイルスにかかってしまったりしてしまう時もありました。しかしそんな時にも、少しでもいいから勉強をするように過ごしていきました。しかし、模試の結果は2年生の時のように伸びず、自分の中で焦りが見えてくるような日が続いていきました。自分でもわからなかったのですが、心がつらいと言っていたのでしょう。1年生で習うような基礎の部分や単純な足し算掛け算までも、何回も間違えてしまうような時期がありました。冬休みになってその様なことがなくなり、成績の伸びも良くなって、自分に自信が持てるようになりました。そして、そのまま迎えた共通テスト、例年と違う英語の出し方や、思うようにできなかった化学と、少し焦る部分もありましたが、最後まで自信を持って取り組むことが出来ました。最終的には目標点数を超えることが出来ませんでした。何の後悔もなく行うことが出来てよかったです。そのあとの試験までも変わらずに勉強をすることが出来ました。

今3年間を振り返ると、今までにないたくさんの経験や、自分がここまで頑張ってきたものがここにあるということが実感できました。大学生活でもこのことを生かして頑張っていきたいです。



情報は生モノ

フェリス女学院大学

高橋 俐子

(沼津市立金岡中)

私は、中学3年生のときに音楽の教員になることを決意しました。だから、大学では音楽の教員免許を取得できる大学を選ぼうと考えていました。音楽の教員になるためには3つの選択肢がありました。第1に教育学部に入ること、第2に音楽大学、いわゆる音大に入ること、第3に音楽学部に入ることです。

受験方法については、総合型選抜、一般受験を主に考えていました。もちろん、指定校推薦を獲得できれば理想的ですが、私が受験する年に枠がなくなってしまう可能性も十分あるので、基本的に指定校推薦以外の準備をしていました。普段の定期テストに全力で臨むのはもちろんですが、自己アピールできることを増やすためにやった4つのことを紹介します。

1つ目は、プレゼンテーションです。学校によっては総合型選抜の際にプレゼンテーションをすることが課題となることがあります。だから、学校で行うCSに力を入れていました。作成はもちろんですが、テーマを音楽関連にしたり、学年全体の前で発表したりしてプレゼン能力の向上と自信を身につけました。

2つ目は、実技です。総合型選抜で実技試験がある可能性を予想して、私はピアノを習っているので、クラシック、ポピュラーを共に弾けるように準備しました。また、ピアノで好きな曲のアレンジや作曲にも挑戦しました。度胸をつけるためにストリートピアノがあれば必ず弾くことを心がけていました。

3つ目は資格取得です。英検、数検はもちろんですが、その他にも災害コーディネーター、発達支援教育士、新・救急救命士などの資格を取得しました。資格というのは、自分に付加価値をつけるものだと思います。また、趣味の空手道は初段、合気道は昇級審査を受けるなど、様々な資格に挑戦し続けています。

4つ目は、部活動や学校内での活動です。部活動では生物部の部長を務め、応援団では副団長を務めました。

肝心な勉強法については、一般受験の対策として取り組んだことは、早い段階で赤本を入手し解いたり、模試を一生懸命やりました。高校1年生の2月は、恥ずかしながらE判定でしたが、高校3年生の8月にはA判定にすることができました。

結果的には、先生方からは学校の成績はもちろんですが、課外活動、部活動、模試の判定を評価していただき、指定校推薦をもらうことができました。だから、今までやってきたことは正解だったと感じています。

最後に私が伝えたいことは、受験は情報戦であるということです。今も感じています。情報は“生”ものです。特に、希望大学が発信している内容や入試方法は確認しておきましょう。知らない人だけが取り残されます。いち早く情報を得て進むことが次に繋がると思います。自分で探せないときは先生や先輩、親、塾の先生、誰でも良いと思います。聞いてみてください。話をよく聞いたり、積極的に質問をし、確かな情報を知ることが大切だと思います。



“不”合格体験記

立教大学 現代心理学部

鈴木心結

(沼津市立愛鷹中)

タイトルからわかるように、私は第一志望の学校に合格をいただけませんでした。率直に言って、とても悔しいです。高2の冬に志望校を決めてから、模試ではずっとA判定やB判定が出ていました。周りの人たちは、私が合格すると予想していただろうし、何より私自身、私が合格することを誰よりも信じ、見合う取り組みをしていたつもりです。しかし推薦も前期、後期も合格はいただけず、最終的に共通テスト利用の私立大学への進学を決めました。

私以外体験記を書いている子は、みんな希望通りの進路に進んでいるだろうと思います。そこで私は自分がなぜ合格できなかったのか、どうして模試の判定をひっくり返す結果となってしまったのか、その原因を分析しようと思います。私の文章がこれから受験する皆さんの役に立てば幸いです。

大まかにいうと、私の敗因は「完成度をMAXに持っていきなかつた」ことです。細かく分けると「家で勉強する習慣がなかつた」「共通テスト対策がしつかりできなかつた」ことが原因です。11月初旬の最後の模試まで、私の完成度はずっとMAXを更新し続けていました。高3になる前から自分ルールを作って勉強時間を確保し、その時やるべき学習を考えて、淡々と勉強し続けた結果です。しかし、模試会場の空調で風邪をひき、治ってすぐに足を怪我して、数週間家でしか勉強できませんでした。私は家で勉強する習慣がなかつたため、この期間勉強時間も減って、質も落ちました。完成度が一気に下がって、これまで解けていた問題が解けなくなりました。回復後、上手く勉強時間を増やせないまま共通テスト対策を始めました。しかし共通テストの問題が嫌いで、モチベーションも上がらず、さらに勉強時間が減りました。こんな状態で完成度が高いはずもなく、共通テスト本番は過去最低点をたたき出し、私立や前期試験でも満足な解答ができませんでした。

共通テスト後の自由登校期間、毎日一番遅くまで学校に残って勉強し、たくさんの先生に解答を添削していただきました。思うような結果を出せずに受験が終わってしまった直後は、あの時間はすべて意味がなかつたかのように思われて本当につらかったですし、お世話になった方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。でも今は、これまで頑張ってきたことは、どれも私にとって必要だったと思います。結果にこそ表れなかつたけれど、日々自分の成長を実感できてとても充実した受験生活でした。こんな私でも頑張ればできるという自信ができました。今後人生で二度と味わえないくらい濃い時間を過ごせたことを、とても幸せに感じています。

最後になりましたが、1年間記述対策を続けて自信を与えてくださった先生方、いつでも私のことを応援してくれた友人、私の意志を最後まで尊重し、生活面や金銭面などたくさん支えてくれた家族、そして今回の受験でお世話になったすべての方々はこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



最後まで自分を信じ続けること

立教大学 文学部

鈴木 芹 彩
(暁秀中)

私は元々勉強が大の苦手でした。そんな私でも、受験生になって勉強を頑張った結果、塾なしで第一志望の立教大学に二学部合格することができました。勉強は苦手だけど行きたい大学がある、そう思っている人の参考になれば嬉しいです。私が受験を体験して大事だと思ったことをここで3つ紹介していきます。

まず初めに、最初から諦めるのはやめましょう。人それぞれ目指す未来は違うと思いますが、大学を決める際に「どうせ自分なんかには無理だ」と思わないでください。私も受験勉強を始めた頃は、MARCHなんて雲の上のような存在で到底学力が及んでいなかったのですが、立教大学のキャンパスに一目惚れをしてから、勉強することを決心しました。もちろん判定も良くなかったのですが、第一志望を下げた方が良いと周りから言われることもありましたが、挑戦しないで後悔するより、挑戦して後悔する方がマシだと思い、最後まで第一志望を変えませんでした。結果、その考えは大成功だったので、もし私のように憧れている大学がある人は、最初から諦めるのではなく、まずは挑戦してみることをお勧めします。E判定でも大丈夫。E判定は伸び代が一番大きい『いい判定』です!第一志望に向けて勉強する決心ができれば、受験日から現在までを逆算して、これからすべきことをリストアップすると良いです。勉強計画を立てることは第一志望合格に近づく第一歩です。

次に大事なことは、基礎から始めることです。私自身受験期にあまり時間が残されていなかったのですが、勉強に近道を求めてしまいたい気持ちはとてもわかりますが、時間をかけて基礎固めをすることが一番の近道だということを覚えておいてください。基礎を身につける前に応用に取り組んでしまうと、結局問題が解けないだけで何も身に付かず遠回りになってしまうので気をつけてください。私が紹介できるのは私立文系の場合ですが、古典と英語においては、単語・文法を完璧にしてから読解に取り組む、社会に関しては、教科書レベルの内容を身につけてから応用知識を入れるなど、当たり前を感じると思いますが「基礎→応用」の順番で進めることはとても大事です。特に受験生は夏が勝負どきなので、夏休みが終わるまでに基礎固めを完成させる勢いで勉強しましょう。

3つ目に私がお勧めしたいことは、英検を取ることです!私の場合は第一志望の英語の試験に英検スコアが使える方式だったので、早めに英検を取っておいたことで受験期は他の2科目の勉強に集中することができました。受験科目を1つでも減らせると、勉強効率の面でかなり有利になるので、英検を早めにとっておくことは大変お勧めです。

最後に、この場をお借りして、私の受験に関わってくださった先生方、家族、そして背中を押してくれた友人たちに感謝します。この先に受験を控えている皆様、これから大きな壁にぶつかることがあると思いますが、そんな時は自分の可能性を信じて最後まで走り抜けてください。積み上げた努力は絶対に自分を成長させてくれます!

皆様の成功を心より祈っています。





初志貫徹

中央大学 文学部

杉山 唯花

(沼津市立第四中)

私は、総合型選抜という入試方法で受験しました。私が総合型選抜を選んだ理由は、この大学でやりたいことがあったからです。社会学は大学によって学べることや、学び方が変わります。私にはこの大学での学び方が合っていると感じ、ここで学びたいと思いました。そして今まで経験したことや培ってきたことを武器にして、試験に挑みたいと考えたからです。私は高校で県のボランティア協会に所属していました。高1ではオンラインを通してタイの学生と交流をしたり、異文化理解を深めたりする活動に参加をしました。高2では実際に東北を訪れ、東日本大震災について学び、防災について考える活動に参加をしました。高校生活の中で、自分が参加したいものや、やりたいことに挑戦することができ、これらの経験から得られたものはたくさんあり、自分の武器の1つになると感じました。

総合型選抜で大変だったことは、試験の具体的な対策ができないことです。試験内容は1次試験で自己推薦書と志望理由書を書き、2次試験では講義を聞いてそれを元に、問題について小論文形式での解答、面接、グループセッションをしました。面接は、担当の先生に対策をしていただきましたが、小論文とグループセッションについては、模範的に対策をすることができません。ほぼぶっつけ本番でやったこともあり、精神的にとってもキツく不安が募りました。準備がしっかり出来ていないと感じていたこともあって、待ち時間はとても怖かったし、周りの人もとても頭が良さそうに見えました。自分が一番できると思いなさいとよく言われますが、自分が一番できるとは全く思いませんでした。そのため、私は自分が一番出来ないと開き直って受験しました。そうしたら気が楽になり、楽しみながら受験することが出来ました。

私は、大学を決める際、親や先生から反対の意見や進路の変更を促す意見をいただきました。私のことを考えて言ってくださっていることは分かっていたのですが、私はどうしてもこの大学のこの学部で学びたかったので、反対の意見に負けず、受験をする意思を曲げませんでした。受験を控えているみなさんにお伝えをしたいことは、ぜひ最後の決断は自分でしてほしいということです。学校の先生、塾の先生、親から厳しい意見を言われることがあると思います。ですがそれを受け入れるかどうかは自分次第です。様々な意見を聞きながらそれらを受け止め、最後にどうするのかを自分自身で決めて欲しいです。

最後になりますがこの場をお借りしてお世話になった先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

受験方法は1つではありません。ぜひ自分の持っているものや経験を存分に活かせるものを自分自身で選んでください。応援しています。



成長と感謝

東京歯科大学 歯学部

岡田 莉奈
(暁秀中)

始めに、大学受験での成功に向けて私を応援してくれて支えて下さった先生方、家族、友人に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。ここでは、私が大学受験を経験し学んだ事や大切に感じた事を書きたいと思います。

1つ目は、「受験の準備」です。受験における準備では、コツコツ勉強をすることも大切な事ですが、明確な目的を持たずに勉強するのは、能率も上がらず成果も期待できないと思います。私が最終的に第一志望校を決めたのは、高校2年生の時で、志望校をなるべく早めに決める事が重要だと思いました。そして、受験に関する資料を可能な限りたくさん集めることで、目標がはっきり見えてモチベーションも上がり、効率よく勉強することができました。受験に関する情報を収集し、それを上手く活用することは成功への近道でもあり、より効率よく勉強できたと思います。

2つ目は、「体調管理と睡眠の確保」です。体調を管理することも大切ですが、私は、睡眠の確保の方が大切だと思います。睡眠不足になると、体調を崩すばかりではなく集中力も低下してしまいます。私は受験の時は、夜12時までには寝るようにしていました。その結果、体調を崩すことが減り、集中力も上げることができました。睡眠を取ることは、ストレスを軽減したり、また受験期の精神的不安、緊張や焦りを緩和したりすることにも繋がっています。自分に合った就寝時間、睡眠時間を設定することが重要です。

3つ目は、「先生方や家族、友人への感謝の気持ち」です。受験勉強は、受験生一人だけで乗り切れるわけではないということです。先生方には、勉学の面で大変お世話になりました。私が理解できなかった分野の解説や受験期の個別面接の練習をしていただき、本番への自信に繋がり、感謝申し上げたいと思います。家族には、私が勉強しやすいような環境を作ってもらい、隙間時間をできるだけ受験勉強に当てることができ感謝しています。また、受験の時に弱気になっていた私を励ましてくれた、全ての人に感謝しています。先生方や家族、友人の支えがあったからこそ、困難な時期を乗り越えることができたと思います。

最後に、私にとって、大学受験という経験で学習を強化することだけではなく、精神力を養うこともできました。これからの人生における様々な困難に対処するのにも役立つものだと思います。そして、大学受験は私にとって人生の重要な経験であり、この経験は私の成長や学びに満ちたものでした。皆さんも、自分を支えてくれている人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、夢に向かって精一杯頑張れるように応援しています。



医療系大学受験の体験談

明海大学 歯学部

稲本 唯人

(伊東市立宇佐美中)

私は、元々アトピー性皮膚炎や慢性副鼻腔炎等を患っていたり、怪我をしたときに直接みてくれた医師や歯科医師に憧れて医療系大学に進もうと決意しました。医療系大学に進みたいと言っても、中々苦勞する道であることは知っているのですが、受験までにしておいてほしいことを言いたいと思います。

まず、自分が受験で使う科目の授業を大切に、残りの授業は主に内職に使っていました。私の場合、数学、英語、物理、化学を使うので他の教科の授業時間は数学や物理の演習をしたり、英語長文を読んだりしていました。個人的には暗記をするのはお勧めしません。BGMではなく歌を聴きながら勉強するのが集中できないように、授業で先生が話しているのが集中できないからです。なので、問題を解いて演習するのに使うのがいいと思います。また、内職がばれてしまった場合はしっかり謝りましょう。先生たちは授業のために準備をしてくれています。その授業を受けている身として敬意を払うべきなので、その場や授業終わりに謝りましょう。そして、三日ほど空けて内職をしましょう。学校は私たちの受験をサポートしてくれますが、合格を保証してはくれません。なので、自分のためになると思ったことは行いましょう。

次に自習時間です。学校帰りに塾に寄って勉強したり、土日に勉強したり出来ると思います。隙間時間に勉強と言われると思いますが、私の場合10分間の隙間時間があつたなら、休憩して次の勉強時間に備え、時間を20分無理やりでも確保して勉強するほうが良いと考えています。これはあくまで例ですが、長めの勉強時間が確保することはすごく大事です。テストの時間感覚を体で覚えることになるので、できるだけ長い時間を取った方が良いと思います。

最後に精神です。これが一番重要です。私はこれが弱かったために、医学部に落ちてしまいました。「空中で綱渡りをしているみたい。」これは受験時に私が母親に言った言葉です。周りには、優秀な人や金持ちな人、どう見てもおじさんにしか見えない人等、色々な人がいました。これは高校では味わえない事でした。また私の場合、親が心配してくれていたのですが、それがまた緊張したりとすごく怖かったです。医学部は倍率を見ればわかりますが、他の学部とは一線を引いているような学部です。とりあえず、そういうもんだと知つといてください。対策は経験する以外ありません。

色々書きましたが、私は医学部に落ちて明海大学歯学部にあります。留年率がすごいけど、学費は安いところですよ。今いるか分かりませんが、大場先生という暁秀で一番熱心なおじちゃん先生が卒業式の日にかこう言ってくれました。「国家試験に落ちて歯に詳しい人になって親不孝はするなよ。」私はこの言葉をばねに頑張っていきたいと思っています。

PS 土井ちゃん、非常勤でもがんばってね。秋T、体を大切に。



日本大学 芸術学部 写真学科

加藤 春樹 (暁秀中)

まず始めに、私の受験生活を支えてくださった先生方、受験を共に乗り越えた友人、そして家族に、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

私は総合型選抜と学校推薦型選抜の2つの入試方式を利用し、総合型選抜では不合格となりましたが、学校推薦型で大学に合格することができました。私が受験を終えて大切だと思ったことを皆さんにお伝えします。

まず1つ目は、募集要項をよく確認し、早めに準備をすることです。その理由は、出願期間までの時間に余裕が全く無いからです。私の場合、高3の夏休み前から、エントリーシートという、今までの写真活動や始めたきっかけを書く書類の準備があり、夏休み中にも先生方に文章の添削等をしてもらいました。加えて、ポートフォリオという探究活動に関する書類の作成もありました。このように書類作成には時間がかかるので早めに準備しておく方が良いと思います。

2つ目に、小論文や面接の練習をたくさんしておくことです。最近の推薦入試ではこの二つが課せられることが多いと思います。私の場合、学校推薦型選抜で受験した際、試験当日60分間で小論文を書き上げる試験がありました。私は、文章を書くのが苦手なので、どのように書けばよいのかわかりませんでした。赤本に載っている小論文の問題で実際に書く練習や、塾の先生にテーマを出してもらい小論文を書くという練習を毎日していました。最終的に、時間内に書き上げられるようになりました。また、私は人の前で話すことが苦手だったので、先生に何度も面接練習をしてもらいました。最初は、質問された事柄に全て答えることができませんでしたが、最終的には、すべての質問に目を見て答えられるようになりました。この二つは自分で合っていると思っても間違っている表現などがあるので、必ず先生方に添削してもらったほうが良いと思います。

3つ目に、受験前日はしっかり睡眠をとることです。前日になると、緊張や焦ったりする人も多くいると思います。私も試験前日は、小論文書けるかな?とか面接試験で質問に対して答えられるかな?などの不安を抱いていましたが、睡眠を多く取ったことで、試験当日焦ることなく十分な力を発揮することができました。十分な力を発揮するためにも、体調を整えるためにも、試験前日はしっかり寝るということをしてください。

最後に受験を通して私が大切だと思うことは、「失敗しても決して諦めない」ことです。確固たる理由を持って精一杯努力することで、合格の可能性が必ず高まります。もし納得のいかない結果だったとしても、気持ちを切り替え、決して諦めることはせず、前を向いて後悔のない受験をしてほしいです。

これまで自分がしてきたことに自信と誇りをもって入試に挑んでください。皆さんの健闘を心から祈っています。



後悔がないように

工学院大学 建築学部

田中 隆也

(三島市立南中)

始めに、学校生活において、先生方、先輩、友達、後輩にお世話になりました。本当にありがとうございます。

私は、東日本大震災の映像をテレビで見て、実際に震災遺構の宮城県にある荒浜小学校に行き、被害にあった建物が再建、津波によって破壊された防潮堤、沿岸道路など広大な土地の再建など、復興の底時からに圧倒されました。その影響もあって高校1年のときの大学進学ガイダンスで、建築大学へ進みたいと決めていました。

しかし、志望校が決まったからと、計画してコツコツ努力するタイプでもありません。サッカー部に所属し、3年の秋の選手権まで続けるつもりでした。勉強時間も限られるので、指定校推薦入試で挑みたいと思いました。定期テストが重視されるので、土日の部活が終わった後や、雨で練習が中止になった日など、空いた時間に早めにテスト範囲に取り掛かり、繰り返し練習問題を解くようにしました。分からない問題は、授業や休み時間に先生、友達に教えて頂いたり、受験はまだ先と考えず、一般受験の建築大学の傾向を調べたり聞いて、今やっている勉強と大学でやる教科をリンクさせて、モチベーションをあげたり自分の状態に合わせた受験に取り組むことが出来ました。

サッカーでは、2年の冬に、公式戦で前十字靭帯を断裂して離脱を余儀なくされました。私は、突然のことで暫く呆然としました。復帰は8か月後で、でも諦めずに選手権に出て、もう一度ピッチに立ちたいと思いました。みんながグラウンドでボールを蹴っている間、自分は隅で筋トレをする辛い毎日でした。ケガでプレーが出来ない時こそ、何をやるべきか、受験生で大切な時なのに勉強に集中出来ず逆境に耐えることがやっとでした。

それでも勉強をやらなければならなかったと後悔しています。学校で、「勉強はどう？」と友達に聞いたり、近況を話すことで先の見えない不安な気持ちが楽になり、お互いの励みになりました。指定校推薦で合格し、選手権まで部活が続けられたのは周りの支えがあったからです。

最後に、大学受験は、まず一人一人の状態や希望に合わせて、自分に合った方法を見つけましょう。そして自分の将来についてもじっくり考えるいい機会でもあります。受験勉強は、いつ始めても構いませんが、早い時期程、志望校の選択の幅、合格に繋がります。恐縮ですが、今、模試の判定で苦しんでいる2、3年生のみなさんは簡単に諦めず、合格につながるように精進し、後悔がない進路にしていただければと思います。



受験を終えて

東京理科大学 先進工学部

勝 俣 凜 香

(沼津市立愛鷹中)

私は学校推薦型選抜を利用しました。受験を終えて、やってよかったなと思うことや、もっとこうすればよかったなと思うことを書いていこうと思います。

まず、成績について、私は定期テスト勉強や塾での映像受講でいっぱいいっぱいになってしまったので、応用力が身につくのに時間がかかってしまいました。校内選考には3年の春あたりまでの模試の成績を用いたので、推薦を考えている人は、2年生のうちなど、早めから演習量をこなせると思います。参考書選びは、周りの人が使っている参考書が、自分に合うとは限らないので、可能ならば中身をのぞいてから買ったほうが良いと思います。私は、3年の春休みから参考書を使い始めたので、薄めのをやりこむことにしましたが、しっかりと成績アップにつながったので、余裕がない人は質と量のバランスを取れると思います。また、学びやすい環境作りも大切だと感じました。質問に熱心に答えてくださる先生にたくさん聞きに行っていたと思います。私は、教科によって、例えば、数学は先生、化学は友達、物理は姉妹などと周りの支えを借りて、勉強していました。大学生になってからは、より恵まれた環境だったんだなととても感謝しています。学習面については以上です。

次に、進路決定についてです。ありきたりなアドバイスしか思いつかなかったのですが、より多くの情報に目を通した方が良いと思います。私も最初は、理学部か工学部あたりというようにしか決まっていなかったのですが、色々な大学、学部の研究室、職業選択などの進路を調べることで、志望を絞ることができました。面接でも、惹かれた研究室や、他大学、同大学の他学科などと比べた志望を聞かれたので、たくさん調べた方が良いです。そうすれば、大学に入って授業を受けたときに楽しいなと前向きな姿勢で取り組めると思います。

これから受験する皆さんを応援しています。

最後に、今まで支えてくださった全ての方に感謝の気持ちを伝えたいです。



You'll be fine.

横浜市立大学 医学部 看護学科

中原 舞 南
(暁秀中)

受験生として、そして IB 生として過ごした1年間は、私の人生における分岐点だったと感じます。たくさんの事を経験した事で、一人の人間としての学びが深まった1年でした。この受験体験記では、私がこの1年間を通して感じた事、学んだ事を記していこうと思います。

受験を終えた今、「自分が行っている事の意味」を常に理解していた事が、私の受験の成功への鍵だったと感じています。高校3年生の春、受験生としての自分を意識しだす時期に私は、受験対策と共に吹奏楽部の副部長、体育祭の西軍ダンスリーダー、そして DP の準備を同時に行なっていました。毎日続くハードなスケジュールに、何度も心が折れそうになりましたが、常に私の支えになったのは、一本の柱でした。それは、私が今行なっていることは、目標としていることに近づくための過程であるという点でした。私には、助産師になるという目標があります。助産師になるためには、まず大学に合格しなくてはなりません。ディプロマを取得し、出願条件をクリアしなくてはなりません。IBでの学びを活かした看護を研究すると決めたのは自分です。辛くても泣きたくても、私の勉強する事、そして受験をする事の意義は、自分の視野や可能性、そして未来を広げるためにあったからこそ、最後まで諦めずに前を向き続ける事が出来たと感じています。これから受験を迎える皆さんも、毎日続く勉強の日々でスランプに陥ったり、何のために勉強しているのだろうと悩む日が来るかもしれません。そんな時には一度立ち止まり、なぜその大学に入りたいのか、今後どのような人生を歩みたいのかを改めてイメージしてみると、時にそれがモチベーションとなり、また前に進む事ができるようになるかもしれません。

この体験記でつけたタイトルは、私が受験期、そして3年間の高校生活でいつも胸に刻んでいた言葉です。中学の時に吃音で悩んでいた際、ある先生が私にこの言葉をかけてくれました。直訳すると、「あなたはきっと大丈夫」。いつもこの言葉が私を励ましてくれました。受験期では、前向きな言葉を常に心に留めてください。時に自分を支え、時に自分を奮い立たせてくれます。今が辛くても、遠い未来を信じて受験期を乗り越えてください。

最後にはなりますが、この1年間、たくさんの方に支えられていた事に気づきました。何度も進路の相談に乗ってくださり、明るい言葉をかけ続けてくださった先生方。どんな時も背中を押し続け、前を向くきっかけをくれた家族。そして辛い DP を一緒に励まし合いながら乗り越えた3Zのみんな。本当にありがとうございました。そしてこれから受験を控える皆さんを、心から応援しています



受験を終えて

早稲田大学 国際教養学部

勝 呂 愛 流

(暁秀中)

DPと大学受験を振り返って、これから大学受験を迎える皆さんにぜひ参考にしてほしいことを書き残します。

1. 早めに

私は総合型選抜で受験しましたが、志望校が確定したのは高3の6月で、そこからは多忙を極めていました。国内大学受験を考えているDP生の皆さん、受験の準備とDP試験・IAの両立は恐らく想像しているよりもハードですし、すべて一朝一夕で成し得るものではありません。特に志望理由書は何度も何度も書き直して、やっと満足のいく文章が出来上がります。当然のことですが、前もって取り組み始めるほど心に余裕が生まれ、切羽詰まらなくなります。何にしても早めの行動がおすすめです。

2. 志望校への熱意

生半可な気持ちで志望校を決めると途中で挫折し、志望理由書も薄っぺらい内容でしか書けません。なぜその大学・学部に行きたいのかを明確にし、言語化することは意外と難しいです。また、受験はゴールではなく通過点です。それをふまえて、「大学在学中・卒業後に何のために何がしたいのか」をどれだけ具体的に・説得力のある文章でアピールできるかがカギです。できるだけ具体的な将来のビジョンを示しながら、自分の価値や可能性を熱弁します。合格させなければ大学にとって大損だという勢いで自分を売り込みましょう。

3. メンタル

「長い人生の中で、受験で苦しむのは高3の今だけだ」とよく言われましたが、私はこの言葉が嫌いでした。受験を辛いだけの思い出にしたくなかったので、時には息抜きなど楽しみながら勉強しました。受験期は凹むことばかりですが、受験までの限られた時間の中でメンタルに振り回されるのはもったいないです。と言いつつ、私は能天気なくせにどこか完璧主義で、何か上手くいかないとすべて放り出してしまうようになるタイプでした。皆さんの中にも私のような人がいるかもしれませんが、何でも完璧にこなそうとすると、自分のよくないところにばかり目がいってやる気が失せます。上手くいかなかったことは反省して、同じミスを繰り返さなければいいだけです。ミスをするのが本番前でよかったと切り替えて、前向きに考えることが大事です。

4. 勉強法

全ては慣れです。効率的かどうかで言えば最悪でしたが、できなければできるだけやるというのが私にとって一番の近道でした。もちろん、勉強法は人によって向き不向きがあります。試行錯誤を重ねて、自分に合ったやり方を見つけてください。まだどこで何を学びたいのかははっきりしていないなら、英語外部試験をできるだけ高得点で取得することに励んでください。英語資格は必ずあなたの武器になります。ただし、一回でベストスコアを出そうとしないでください。直前に少し勉強すればいいというものではなく、毎日ちゃんとやることがスコアアップに繋がります。

最後に、これまで私を支えてくれた家族、先生方、友人に心から感謝申し上げます。

皆さんが悔いなく受験を終えられるよう願っています。



なんとかなる

慶応義塾大学 総合政策学部

秋山 瑛汰

(暁秀中)

まず始めに、私の長い受験生活を支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。結果的に私は、他のバイリンガル生とは異なり、一般入試で大学に合格する事ができました。ここでは国際バカロレアが終わった11月から、約3か月で大学に合格するために何が必要で、重要だったかを皆さんにお伝えします。

まず1つ目に、情報戦を征する事です。私は日本語で社会科目や理科を習っていなかったため、いかにバイリンガルコースで学んだことを最大限活かし、新しい学びをいかに最小限にするかという事に徹しました。そのために、私の強みは何かを分析しました。私の場合、英語と小論文は比較的強みであり、現代文は必要最低限の努力で何とかなると考えていました。そして、塾や親からもアドバイスを貰い、これらを組み合わせて自分だけの合格への最短ルートを作りました。(参考：大学入学共通テストでは、文転し、現代文、現代社会、英語の3科目を用いて、March等、多くの私立大学に出願しました。)「皆が古文・漢文や世界史をやっているから」といった理由で受験科目は選ばず、自分の置かれた立場を良く理解し、それに合った科目選択をして、努力する事が大切だと思います。

2つ目は、勉強のためだけの空間を用意する事です。私の場合、塾の自習室がこれに該当しました。このような空間はどこでも良いと思います。例えば、図書館や家の中の一室などです。ですが、勉強以外の物は持ち込まず、携帯や私語のない空間にしましょう。このような空間を作る事で、勉強に集中して短期間で詰め込むことができ、短期間で第一志望の大学を狙う事ができると思います。

3つ目に、勉強を楽しみましょう。そんなの無理だろうと、私も最初は思っていました。どんな理由でもいいので、勉強をする理由や楽しめる要素を作ってください。私は、友達にテストの点で負けたくないという気持ちや、参考書にいっぱい書き込みをしている人がかっこいいといった憧れが、勉強をする理由でもあり、勉強を楽しめた理由でした。勉強をさせられるのではなく、勉強をする・しようと思える理由を見つけることでモチベーションアップに繋がってください。

最後に、本を読みましょう。私は本が大っ嫌いで、IB受験期も一般入試の受験期も後悔をしました。小論文が入試に含まれる方や推薦入試を考えている方は、とにかく色々なジャンルの本を読んでください。そうすることで、時事問題への捉え方や、テーマに対する考え方のヒントがもらえると思います。

勉強するという事は大前提であり、周りの受験生も同じです。なので、勉強量以外の戦略で差を付けてみて下さい！そうする事で自分の自信にも繋がり、良い結果に繋がると思います。加えて、担任の先生やご指導していただいた先生方、親、そして塾の講師たち、全員がいなければ私の受験は成り立ちませんでした。感謝の気持ちを忘れずに、その時の人との出会いを大切にしてください。

皆さんの成功を心から願っています。



受験が終わって感じていること

The University of Melbourne, School of
Political Science

太田 蒼
(暁秀中)

様々なことに打ち込んだ3年間の中で、自分がやりたいことに悩む瞬間は何度もありました。これからの未来で自分がやりたいことは何か、今学んでいることは自分が大学や将来やりたいことにつながっているのか、疑問に思うことは必ずあると思います。私自身、数学Ⅲ以上の数学や化学や物理を選択しながら、政治経済学部に進学することを選びました。DPのHL教科を4つ取る遠回りをしましたが、決して自分の選択を悔んだり後悔したりはしていません。むしろ様々なことを経験し、感じたことが、今の自分を形成してくれたと考えており、たくさんの機会を提供し、協力してくれた皆さんに感謝を伝えたいと考えています。

バイリンガルコースの生徒にとって、高校1年生の最後に選択するDP教科は、その後の2年間を大きく変える選択だと思います。教科選択に悩んでいる際や、授業が始まってからは、クラスメイトの話を聞いてうらやましく思うこともあると思います。私も、自分が得意だと考えていた理系科目で躓いたりした際には、もう少し楽に乗り越える方法があったと思いました。しかし、そこで学んだ内容や教えてくれた先生との関係は、大学の出願書類をそろえる際にも有利に働きましたし、自分の考え方を考えさせてくれるようなこともたくさんありました。

高校の3年間はとても短いです。しかし、これから大人になる自分を形作っていく大事な時期です。自己形成の最中だからこそ、様々な経験を積んで自分の心の糧にしていくことが大切だと感じました。惰性で行動し、何となく卒業していくのではなく、自分のやりたいと感じたことを全力で取り組み、駆け抜けていくことが大切だということです。自分の中で高校生活に後悔があったら、自分にももう少し無理をさせてもよかったということです。私自身は、言い訳をして、挑戦することを諦めてしまうことも何度かありました。それを後悔するくらいなら、もう少し自分に負荷を掛けることも必要だったと考えています。その上で、自分が本当に限界を迎えたときには、支えてくれる家族や仲間がたくさんいます。その中で、自分がやりたいことを後悔しないようにやることが、自分にとって、自分を味方してくれる人にとっても大切なことです。

人生一度きりという表現は陳腐かもしれませんが、自分の人生に自分なりの価値を見出すことができるのは、自分自身だけだと考えます。皆さんも、友人が参加している活動や、持っている才能に嫉妬し、自分を惨めに思う瞬間はあると思います。そして、これからの人生の中で、誰かに敵わないと思う瞬間や、越えられないと思う瞬間は幾度となく訪れます。だからこそ、やるべきことは、自分だけの物語を紡いでいくことだと思います。

皆さんのこれからの高校生活が自分らしく、素晴らしいものになることを心から祈っています。



できるだけ楽にDPと 大学受験で勝利を得る方法

The University of Edinburgh / MA International Relations
University of California – San Diego /
International Studies – Political Science, B.A.

チェセン シェーン太陽
(暁秀中)

私は、先輩方、先生方、そして私より2年先にDPを経験した姉の話聞き、「DPは生き地獄だ」という先入観と恐怖に支配されていました。ですが、いざ自らDPを経験してみると、生き地獄となるかどうかは、本当にその人の「戦い方」次第であると実感しました。部活等の課外活動をやりながら大学受験に挑んだ私ですが、他人が想像するよりも楽に2年間を乗り越えられたと思います。早速、私流「極限まで楽にDPを乗り越える為の心得」を皆様に伝授します。

1. 戦の前に敵の情報をしっかりと把握しておく

「敵」という少々物騒な言葉を使用しましたが、ここで言う「敵」はIBの事です。課題や試験対策を本格的に始める時期になったら、ただ学習内容のまとめや総復習をやるのではなく、まずはDP全アセスメント (IA, EA等) の概要や評価基準、求められるスキルをしっかりと調べ上げ、その上で、現時点で自分が有する知識と実力を冷静に分析しましょう。これにより、IBの採点官が受験生に求めている事と、自分に足りない物の両方が見えてきて、弱点を補いながらIBのニーズにピンポイントで応えるような対策が可能になります。当たり前の事を言っているかも知れませんが、意外と見落としがちです。DP試験直前になって「HistoryのPaper 1って何をするの？」等の質問をする状況は回避しましょう。

2. 勉強計画を立てる基準は「労力」と「利益」

DPはコンテンツ量が非常に多いです。やれる勉強法を全てやり、内容を隅から隅までカバーしないと不安かもしれませんが、そうすると試験に間に合わないどころか、身体が限界を迎えます。その為、勉強する時は必ず効率性と時間短縮を心掛けましょう。まずは、最低限の労力(努力と時間)で最大限の利益(点数)を得る事を考えましょう。例えば、少ない努力で点数が伸びそうな教科は徹底的にやり、時間を使っても伸びそうにないものは妥協しましょう。全て完璧でなくてもDP何とかかなります。力を出し切らずに点数を稼ぐのが最善です。

3. 資料の共有は大切だけど・・・

試験対策において、自分の資料だけでやろうとすると手間と時間が結構かかります。その為、クラスメイト同士でノート共有を積極的にしたり、必要ならばネットを探したり、過去の先輩から資料をもらいましょう。ですが、ここでよくいるのが、他人の資料を読むだけで自分は何もせずに満足してしまう人です。これだと、実際のテストの時に自分なりの論がまとまらず、かえって苦戦する事態となってしまいます。共有されたものを活用しつつ、自分の見解と一緒にノートにまとめるのが成功への秘訣です。

色々長くりましたが、この文章を読んだ皆様には自分にとって最適な戦い方を見つけて受験に臨んで欲しいです。戦い方次第で、受験の苦しさというのはいくらでも軽減できます。自分の全てを受験に捧げずに、一回きりの高校生活を存分に楽しみながら、合格を勝ち取りましょう。皆様の健闘を心より祈っております。